

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立下地小学校
(※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 440-0086
愛知県豊橋市下地町宮前68

E-mail shimoji-e@toyohahi.ed.jp
Website shimoji-e.toyohashi.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 179 名 女子 151 名 合計 330 名
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 13 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校のすぐ近くには、1級河川の豊川が流れている。35年の歴史をもつ「豊川横断水泳大会」の行事を中核に置き、泳力を中心とした体力づくり、歯や心の健康づくりを中心とした保健指導に力を入れてきた。ESDを「心身の健康増進」の観点から、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成することと捉えている。

そこで、本校は「大いちょうプラン」として4つのプランを立てて、①きたえる活動「たくましい心とからだづくりプラン」、②育てる活動「輝く笑顔づくりプラン」、③守る活動「安全安心な学校づくりプラン」、④広げる活動「確かな学びづくりプラン」として、子どもたちが自ら健康課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に行動できるようにするための活動や学習を進めている。

① きたえる活動「たくましい心とからだづくりプラン」

年間を通して、目標をもち運動に立ち向かう子を育成するために、週400分運動を目ざして実践を行ってきた。毎週火、木曜日の朝の10分をスポーツタイムとして、下地っ子体操、器械運動、長なわ月間、チャレンジマラソン、短なわ

強化月間などを、継続して行ってきた。また、健康教育に重点を置き、年3回の健康チェック週間を設定し、よりよい生活習慣が身につくように、バランスのよい食事・睡眠時間・メディアの時間などの見直しを継続して行った。学校保健委員会でも、専門家に運動と睡眠の関係について講演をしていただいたり、健康チェックの成果をとりあげたりして、子どもたちの意識を高めてきた。その結果、休み時間には運動場に出て積極的に体を動かす子や自分の目標に向かって継続的に練習を積み重ねる子、早寝・早起きの習慣がついてきた子などの成果が表れている。

② 育てる活動「輝く笑顔づくりプラン」

笑顔輝く子どもを育てるために、他者とかかわり合いながら心をつなぐ活動として、ぎんなん活動（たてわり班活動）の充実、あいさつ運動の実施、年6回の歌声集会、読書週間の充実を図ってきた。ぎんなん活動では、異学年の子どもたちがふれ合うことで、高学年のリーダー性や思いやりの心を育てることができた。また、歌声集会では学年の歌声の発表だけでなく、全校のリズム遊びを取り入れることで、お互いの音を聞き合い、響き合わせ、豊かな情操や表現力を身につける活動になっている。

③ 守る活動「安全安心な学校づくりプラン」

児童の安全に対する意識を高めるとともに、地域ぐるみでの子どもの見守り活動を展開するための活動として、防災学習の日を位置づけている。今年度は、市役所の防災危機管理課の方を講師として、「災害への備え」のお話を聞いたり、学年ごとに、煙体験、消火器の放水体験、防災クイズ、防災グッズの点検、保存食の試食などを行ったりした。また6年生は、地域の自主防災会の指導のもと、AEDを使って心肺蘇生を行う方法を学び、実際に災害が起きた時は地域の住民の一人として、少しでも役に立ちたいという意識を高めることができた。

また、近くにあるこども園と合同で、大地震が発生した後の津波に対応する避難訓練も継続して実施している。学校の屋上に避難する活動を行い、実際に大地震が起きたらどうなるかという想定のもとでの訓練は、自分の命は自分で守るという、子どもたちの防災意識を高めるために重要な役割を果たしている。

④ 広げる活動「確かな学びづくりプラン」

基礎学力の定着だけでなく、「かたる」「かかわる」「かわる」力に重点を置き、自分で考える子を育成するために、スピーチタイムを設けたり、話し合い活動を充実させたりしている。

今年度は関わる活動の一つとして、6年生が毎年行っている豊川横断水泳大会に向けて、豊川横断を始めた当時の教師の話や実際に子どもの頃に泳いだ経験のある保護者の方に話を聞く機会を設けた。豊川横断の歴史や30年以上にわたって続いている伝統的な行事への思いを知ってから行事に参加することで、この行事がより意味のあるものとして子どもたちの心に刻まれることになった。



① スポーツタイム（器械体操）



② 歌声集会（リズム遊び）



③ 防災学習の日（AED体験）



④ 豊川横断水泳大会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・ 防災危機管理課 岡田さん・ 防災コミュニティマップ作成の手引き ・ 「元気いっぱい下地っ子 ～運動するとよく眠れる?～」 (コンディショニング・ケア共栄) 講師 白井栄一氏・ 「スポーツのまち」づくり課 石川さん、鈴木さん・ 豊川横断水泳大会の歴史について 大村小校長 谷野正明先生

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「地域の環境とともに生きるたくましいからだと心をもった下地っ子の育成」という研究主題で教育活動を進めている。6年生で行う豊川横断水泳大会を見据えて「豊川と共に生きる」というテーマのもと、3年生～6年生までの総合的な学習の時間を活用して、系統的に豊川についての学習を深めている。調べ学習や体験の際、できるだけ地域の人から学ぶ活動を増やすために、地域ボランティアの発掘をするように努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校運営機構の中に ESD 主任を位置づけることが、豊橋市全体の取り決めになっている。本校では ESD 主任と総合的な学習主任が連携して、学年の中心となって推進している。各学年で、目標を達成するために、学級活動や体育、総合的な学習の時間、生活科、道徳、業前活動等で体力づくり、地域学習等と行事を関連づけて活動を進めていく。そのための実践計画として「大いちょうプラン」を ESD カレンダーに位置づけ実践している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートを児童・保護者・地域・職員を対象に実施した。重点努力目標である「体も心も元気な子の育成」では、豊川横断水泳大会の実施に向けた水泳指導や、大会の意義を引き継ぐ校区の方との出前授業、当日の安全確保のための地域協力など、学校と地域が伝統ある行事を成功させるために協力できたことが明らかとなった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校のホームページや学校だよりを通して、本校の ESD 活動について発信している。また、授業参観日の公開授業においても、児童の活動内容や調べ学習の成果をまとめて、発表する機会を設けている。

特に豊川横断水泳大会は35回目ということもあり、新聞やニュースにも取り上げられ、毎年、豊川まで足を運び、協力してくださる地域の方が増えている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

会いに校区の「下地すみよいくらしづくりの会」の指導のもと、EMだんごを作り、校区内に流れる小川に投入して、川の浄化活動を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

同じように豊川が校区に流れる市内の他の小学校と、豊川の恩恵や水害についての調べ学習の内容や豊川に対する思いなどについて、情報・意見交換を行った。テレビ電話で各教室をつなぎ、リアルタイムで交流を行ったことで、豊川に対する考えや気持ちの理解が促進された。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

豊川横断水泳大会では、地域から子どもの時に横断を経験した方や、行事が始まった頃に職員だった先生を講師に迎え、大会の歴史を振り返ることで、地域の伝統行事として35年目を迎えていること子どもたちは気づくことができた。子どもたちは、「真の下地っ子を目指して～挑戦・感謝・郷土愛～」をテーマに掲げ、地域とのつながりを感じながら、活動に取り組むことができた。活動後は、この活動が続くように応援したいと考えるようになり、地域の一員としての自覚に目覚めることができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

・児童の実態や地域の特色に応じたカリキュラムになるように、ESDカレンダーを見直し、健やかな心とからだづくりに進んで取り組む下地っ子を育成するための具体的な活動内容の改善を図る。

・心の健康に力を入れ、道徳の教科化に合わせ、「考え・議論する」ような話し合いの場の設定をしたり、学校保健委員会のテーマとして取り上げたりする。